
隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』」 第 151 号

-環境・農業・食べ物など情報の交流誌-

2005.01.27 (木) 発行 山崎農業研究所&編集同人

<キーワード>

環境・農業・健康・食べ物などの情報提供、高齢者と若者、農村と都市の
交流ミニコミ誌。山崎農業研究所&『電子耕』編集同人が編集・発行。

http://www.taiyo-c.co.jp/public_html/yamazaki/yama_index.htm

*****発行部数 1475 部*****

□ 目 次 □-----

<今週の提言>いま、渋沢栄一翁に学ぶ 大山勝夫

<旬を食べるー野良からの便り・16> “牛蒡：木の根っこ？” 小泉浩郎

<79歳の意見>四股を踏んで・・・憲法を読む

改憲の動きにどう対処するか 原田 勉

<日本たまご事情>

諸羽（もろは）うちふる鶏（くだかけ）は その2 愛鶏園・齋藤富士雄

<投稿>傾斜畑耕うんと環境問題 安富六郎

<ミニ解説>農業・農村の組織とその役割（2）

ー隣組（村組）などの伝統的な集落組織ー 石川秀勇

<編集後記・同人の近況報告> 1月13日～1月26日

<今週の提言>いま、渋沢栄一翁に学ぶ

昨年、話題となった半藤一利氏の「昭和史」（平凡社）によれば、わが国が
開国以来歩んだ歴史を40年周期で分けると、それぞれの時代の特徴が鮮明にな
るといふ。1865年ー1905年この間わが国は急速な近代化に成功した。これに続
く40年はひたすら戦争への道をたどり1945年の敗戦ですべてを失う。その後、
不死鳥のように復活、高度経済成長を経てバブル崩壊、そして、現在なにやら
きな臭い時代をむかえる。

先ごろ、日仏会館が創立されて80周年の記念式典が行われたが、その際当会
館の創立と日仏交流に尽力された渋沢栄一翁の業績が紹介された。とりわけ翁
が1923年6月13日に講演された「道徳経済合一説」と1928年11月11日の「休戦
記念日に際して」それぞれ朗読と解説が印象に残る。

半藤氏の時代区分に従えば、第1期に当たる40年、わが国の近代化にあたり渋沢翁は、西欧各国を歴訪、その後1年以上フランスに滞在、この経験をもとに近代日本の青写真を描き、着々と社会の諸制度、公共事業、社会福祉を進めたといわれる。

これら近代化を実現させた渋沢翁の哲学を「道徳経済合一説」にみることができる。つまり儒教的「経世済民」の理念である。昨今の国内の政治や経済にかかわるさまざまな不祥事を目の当たりにして、為政者や経営者はここでわが国近代化の初心に思いをさせていただきたい。

渋沢翁はまた、「休戦記念日」の講演で、科学技術の発展による戦争の悲惨さについてとくと述べられ、国際間の紛争平和的解決にあたって当時の国際聯盟の重要性をといておられる。まさに、今日の世界情勢を予見しているようであり、ブッシュ大統領に一読をお勧めしたい。

大山 勝夫

山崎農研会員・日仏農学会会長 y.nouken@taiyo-c.co.jp

<旬を食べる一野良からの便り・16> “牛蒡：木の根っこ？”

やわらかい冬日、祖母が牛蒡の泥を包丁の背で削ぎ、冷たい水で洗っている。「きんぴらごぼう」の準備である。正月、自給用の牛蒡は、まだ、畑にある。50～60cm掘り、1本、1本引き抜くのが父親の役割だった。「きんぴらごぼう」には、人参、大根、こんにゃく、鷹の爪が入る。これに「あまさけ」と「けんちん汁」が加われば冬の定番の出来上がりである。

牛蒡の花は、最近見られなくなった。種子をみな購入しているからだ。当時は、種子を採るため1～2本は畑に残した。秋、アザミに似た赤い花が咲く。花が萎むと直径2cmの丸いイガイガとなる。これも子供の遊び道具である。衣類に投げつけるとピタと着く。お互いに投げ合って遊んでいると父親の雷が落ちる。

牛蒡は、食料として一般的なのは、どうも日本だけらしい。終戦当時、駐留軍が牛蒡を見て「日本人は食糧難で木の根を食べている」と言ったとか言わないとか。

牛蒡は、植物繊維が多く腸整効果が高い。便秘、糖尿病、動脈硬化、そして大腸がんの予防にも有効だという。「きんぴら牛蒡」に代表される伝統食だけでなく、最近では低カロリーサラダとして若者にも人気がある。日本からの輸入かどうか、アメリカのスーパーでも人気食品だと聞く。

輸入と言えば、食習慣のない中国、韓国に種子と技術を移し、栽培された牛蒡が大量に輸入されている。近くのスーパーでも半値、あるいは3分の1で売られている。彼等の食卓にも上るかも知れない。

「滝野川牛蒡（東京）」、「大浦牛蒡（千葉）」、「常盤牛蒡（長野）」、「堀川牛蒡（京都）」等立地を活かし独特の形と風味を守っている産地がある。その歴史をたどり独自の栽培法を記すと一冊の本になる。最近では「コバルト早生」等カタカナの品種（茨城）も出ている。放射線育種で突然変異を利用したものである。

伝統を守りながらも、食材の持つ機能性に注目し、新しい食べ方、それに合った品種改良によって、この木の根っこ風も健康野菜として世界にはばたく日も近いように思う。

観光地で売られている牛蒡の味噌付けは、牛蒡あざみの根で食用の牛蒡とは全く違う。また、ほんもののやまごぼうは別種で有毒だと言う。

小泉 浩郎

山崎農業研究所事務局長

y.nouken@taiyo-c.co.jp

<79歳の意見> 四股を踏んで・・・憲法を読む

改憲の動きにどう対処するか

今年は、九条の改変をねらう改憲の動きが強まるだろう。それにいかに対処するか。

今年の年賀状には、各地に九条を守るという決意の表明が多かった。大阪のTさん、松戸のHさん、神奈川のYさん、東村山のNさん、三鷹のIさん、八王子のKさん。いずれも今年は真正面からこの運動に全力をあげますと言う。

そのなかで、特に具体的なのは日野市の山田民雄さんの意見である。
ご本人の了解を得て概要を掲載することにする。

----- 四股を踏んで・・・憲法を読む -----

一年の計とはいかぬが、今年はぜひこれをやっていこうと思い立ったことが二つある。

一つは四股踏みだ。背筋を伸ばし、両足を開いて構え、膝に手をそえて足を交互に高く上げ、力をこめて踏みおろす。お相撲さんがやるあれだ。庭先でも玄関前の路地でもやれる。金もかからず、道具もいらぬ。二〇回、毎日ゆっくりにやる。

わたしは心の足腰の鍛錬ということを考える。心身をしゃんとさせたいのだ。

いまは時代の折り返し点、敗戦六〇年目をむかえるこの国は重大な曲がり角を曲がりつつある。変転にまどわされぬ思考力と行動力、それを身につけるための四股踏みだ。

もう一つは、憲法を前文から十一章の百三条までじっくりと読み直すこと。そのために手頃な一本を手に入れた。童話屋という出版社から出ている『日本国憲法』。

この本が気に入ったのは、文庫判、七八ページ、定価二八六円という小冊だからだ。ごく軽く、ポケットに入るので持ち歩くのにいい。子供向けにつくられていて、活字が大きくルビ付きでもある。片手でページを繰れるから電車の中でも読めるし、風呂やトイレにも持ちこみやすい。

自衛隊のイラク派遣以来、一段と強まった九条改変をふくむ改憲の動きが今年はさらに強まるだろう。こんどの通常国会は国民投票法案をめぐる攻防の場となる。衆・参両院の憲法調査会の最終報告書も五月に向けて出される。そうした動きを凝視し、さまざまな改変論議が交叉するなかで、自分の立場をたしかめなおしたい。

何をいまさらといわれるかもしれないがかまうものか。一日一条の憲法読みを日課にして「自分力」を鍛えていこうと思う。しっかりと四股を踏んで。

----- 山田民雄 ---

憲法問題は、電子耕でも前に取り上げたが、

- 1, まず、現憲法をよく知ること。
- 2, それが、いかに正しいかを伝えること。
- 3, 特に若い世代にどう伝えるか。伝達の方法を工夫すること。
- 4, インターネット、ホームページを立ちあげて、ネット上の話し合いを盛んにすることである。

その手始めに、山田さんの例を掲げた。

<参考リンク>

『日本国憲法』 童話屋

http://www.dowa-ya.co.jp/books_data/story/014.htm

<http://www.trc.co.jp/trc/book/book.idc?JLA=01009301>

Yahoo! JAPAN - 政治 > 法 > 憲法

<http://dir.yahoo.co.jp/Government/Law/Constitutional/>

九条の会 - 憲法第9条を護る立場で結成された団体。井上ひさし、梅原猛、大江健三郎、奥平康弘等呼びかけ人の紹介、活動情報。

<http://www.9-jo.jp/>

山崎農業研究所会員・『電子耕』編集同人

原田 勉

<http://nazuna.com/tom/>

(参考リンク：原田太郎)

<日本たまご事情>諸羽 (もろは) うちふる鶏 (くだかけ) は その2

自称ニワトリ雑学博士の得猪外明さんから、勇ましい鶏 (くだかけ) もいい

が、憎まれ役の鶏（くだかけ）も居たのだぞと早速 Mail をいただいた。

「一番鶏の鳴き声は朝と希望を招く喜ばしいものですが男が女の許に通った時代は随分恨まれたものでした。

鶏の声を合図に男は後朝（きぬぎぬ）の別れで帰らなければならなかったからです。伊勢物語に“夜も明けば 狐には喰めなむ 腐鶏（くだかけ）の まだきに鳴きて せやをやりける”

（大意） せっかくいいところなのに あのくそにわとりめ 夜があげたら狐に食わせてやるわなどと詠んだ女性もいました」

得猪外明さんには無理を言って私どものホームページに「こけこっ考」なるエッセイを連載してもらっているが、これがとても人気がある。

今年は酉年と言うこともあって特にアクセスが多い。詳しいことは判らないが「世界 鶏の鳴き声……」などの言葉で検索すると、この分野は得猪外明さんの独壇場であるから結果的に私どものホームページを訪問することになるらしい。

さて今年の鶏（くだかけ）は如何なるときの声を告げてくれるやら……。

齋藤 富士雄

（株）愛鶏園

<http://www.ikn.co.jp>

<投稿> 傾斜畑耕うんと環境問題

耕うんのエネルギーは圃場農作業の大きな部分を占めている。水田では代かき、耕うんエネルギーの消費量は水稻栽培全体の 20%以上もある。畑地では栽培作物によって変わるであろうが、その消費エネルギー量は同じくらいではあるまいか。このエネルギーを少なくするために不耕起、部分耕起の研究が行われている。不耕起といっても浅く耕す場合も含まれるから、一概に全くの不耕起ではない。また部分耕起といっても根の生育する領域だけのものもあり千差万別である。いずれにせよ、このエネルギーの省力化は実用面からはあまり成功していない。確かにエネルギーは少なくすむが、その普及には至らないのである。

傾斜畑の耕うん畝の方向には土壌保全からは等高線に沿った横方向（L型）が推奨されるが、等高線に直角方向の（V型）がどうも一般のようである。インドネシアで調べたことがあるが、ほとんどがV型なのである。現地の人に理由を聞いた。その理由には2つある。第1は雨が多いとき排水が悪く、病害虫が発生しやすい。第2は機械運行にはV型が便利であるということである。ヨーロッパでも古くからV型であるようだ。ブドウの栽培の畝立て方向は排水の良い方向というからV型である。中世の絵画を調べても傾斜畑の畝には等高線に沿ったL型は見あたらない。

土壌と肥料の流亡防止からはL型が優れているはずだが、わが国でも現在の傾斜畑耕うん作業にはL型に比べてV型はるかに多い。L型の優れたもう一つの特徴はエネルギー省力効果である。考えられる常識の範囲で条件を設定して耕うんエネルギーの簡単な計算をすれば、L型<V型となるのが容易にわかる。もちろんこれは机上の計算であるから、実験的な裏付けが必要だが、実際にはおそらくLはVと比べ、かなり低いエネルギーでの作業が期待できると予想される。

かつて農業機械の研究者が傾斜地でも斜面に応じて車軸が自由に傾くL型の作業機械の開発を試みたことがあった。しかしその後この機械の実用化は聞かない。環境保全とエネルギー省力を本気に考えるならば、農作業体系の見直しと新しい圃場作業用機械の開発が望まれる。

安富 六郎

山崎農研会員・電子耕編集同人

y.nouken@taiyo-c.co.jp

<ミニ解説> 農業・農村の組織とその役割（2）

—隣組（村組）などの伝統的な集落組織—

町場の住民になると、「町内会」が大概できていて、その一員になります。これに対して農村では、「隣組」や「村組」の呼ばれ方で、昔からの伝統的な組織が今も続いているところが多いように思います。そこでは、家と家とが隣近所という地縁的な結びつき方をしていると同時に、本家・分家といったような血縁的なつながりもかなり普通に見られる組織となっています。

この隣組が存続しているところでは、農村における社会生活の基礎的な単位として、葬儀の相互扶助、神社の氏子としての役目など、その地での様々な慣習をつくっており、地区の住民になればそれに付き合っていくことを求められることになります。

その一方、この隣組は行政の最末端の単位ともなっております。そして、3つか4つ位の数の隣組の上に「区」がおかれ、その区長及び隣組長とを通したルートで、役場からの例えば「納税の督促」、「各種の調査」といったような要請、伝達を受け止めている仕組みができています。

隣組は、会館などの名称の集会所を有し、地域によっては違うかも知れませんが、そこで毎年元旦に「初寄合い」が持たれ、今年は誰にどの役をやらうか、というようなことを話し合うようです。郷里で子供の頃、そうした光景のあったことを記憶していますが、今もこの慣習は変わっていないようです。

新規参入者には、多分初めは軽い役から要請され、次第に重い役を言われましょう。そして地区に根を生やした状況になると、隣組長や区長といった大役も要請されるようになる。そんなイメージが想定できるように思われます。

隣組の原型は江戸時代につくられ、第二次大戦中に全国的に組織化されたという歴史があるとのことですが、それが慣習として続いている。隣組の存続はそう言えようかと思います。

石川 秀勇

山崎農研会員、野田市在住

y.nouken@taiyo-c.co.jp

<編集後記・同人の近況報告> 1月13日～1月26日

先週末、次男の通う幼稚園で餅搗き会が開かれた。お母さんたちがせいろで糯米を蒸し、お父さんたちが杵と臼で搗く。搗き手になるのはけっこうたいへんで、わたしの場合長男が通っていた去年の餅つき会では搗き手になれたが、今年は選からもれてしまった。子どもたちにとって餅搗きを見る機会はほとんどない。「よいしょー よいしょー」とかけ声をかける。お父さんや先生ととい

っしょに餅搗きの格好もする。そして搗きたての餅をほおおぼる。次男にどうだったと尋ねてみたが、やはりずいぶん楽しかったらしい。が、いちばん楽しんだのはお父さんたちではないか。来年こそはまた搗き手になるぞ！ と今から思っている。(山崎農業研究所会員・田口 均)

◎お願い「<読者の声>の投稿規定・メールの書き方」

- 1、件名（見出し）を必ず書いて下さい。「はじめまして」は省略して、言いたいことを具体的に。
- 2、氏名・ハンドルネームは、文末ではなく始めのほうに。
- 3、1回1テーマ、10行位に。
- 4、ホームページを持っている人は、文末に URL を。
- 5、JIS X0208 規格外の文字（機種依存文字）のチェックを。

<http://www.chem.sci.osaka-u.ac.jp/networks/check/jisx0208.html>

インターネットで使えない丸数字や半角カタカナ、括弧入り略号などは文字化けの原因です。

◎投稿アドレス変更のお知らせ

電子耕への投稿アドレスは、発行人の変更に伴い、

y.noken@taiyo-c.co.jp

となっております。投稿される方はこちらのアドレスをお願いします。

次回 152 号の締め切りは 2 月 7 日、発行は 2 月 10 日の予定です。

★『メールマガジンの楽しみ方』発売中

書名：岩波アクティブ新書 45 『メールマガジンの楽しみ方』

著者：原田 勉 定価：735 円 発行日：2002 年 10 月 4 日

発行所：岩波書店 ISBN4-00-700045-X

まえがき・目次・著者紹介・注文方法はこちら

<http://nazuna.com/tom/book.html>

『電子耕』から大切なお知らせ

<http://nazuna.com/tom/denshico.html>

http://www.taiyo-c.co.jp/public_html/yamazaki/yama_mailmag.html

<本誌記事の無断転載を禁じます>

隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』」 第151号

バックナンバー・購読申し込み／解除案内

<http://nazuna.com/tom/denshico.html>

http://www.taiyo-c.co.jp/public_html/yamazaki/yama_mailmag2.html

2005.01.27（木）発行 山崎農業研究所&編集同人

<mailto:y.noken@taiyo-c.co.jp>

***** ここまで『電子耕』 *****